

報

2

February 2009
No.1267

人

fujingaho

婦

温かな北の宿

北陸の美味、名湯、絶景、まごころ

阿木燿子さんがトライ!

「着やせ」の極意

入浴でマイナス10歳

名ブランドの

100年の名品

日本の「ミッシングピース」を語る

姜尚中さん

高峰秀子との仕事 斎藤明美

人を呼びたくなる13のレシピ・37の取り寄せ……

招き鍋

50

志村ふくみ、品川恭子、小倉淳史、由水十久ほか
「作家のきもの」を楽しみ、伝える

日本羊食器の傑作 尺貫家のりぼん昏れ支度

世界が

見初めた日本

La Beauté Japonaise que le Monde Admire

十四

ひらく

日本には海を越えてさまざまな
「美」がもたらされてきました。
一方で、日本から海の外へと渡った
「美」はまた、新たな光を放っています。
この豊かな交わりの、
歴史の途上の煌めきをお届けします。

撮影 中川十内 編集協力 木村慎太郎



特選番傘
京和傘 日吉屋

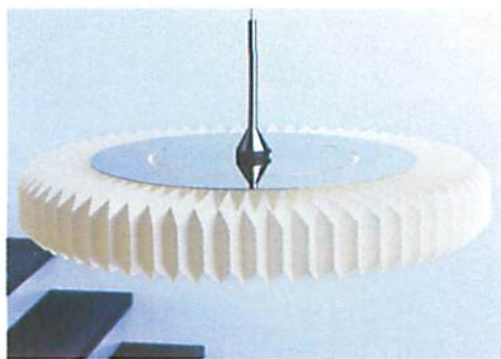
現在、和傘の生産は
非常に少なくなっており、
京都府、岐阜県、石川県・金沢、
鳥取県、徳島県のみで
少数の生産者により作られている。
日吉屋は京都で唯一の生産店。
特選番傘 26,250円 (日吉屋)



15頁の和傘を閉じた様子。
開いたり閉じたりできる傘が
一般に普及したのは江戸中期頃といわれる。
開閉式の傘は今でこそ当たり前のものだが
実は非常に高度な技術によるものだといわれる。

デンマークの灯りのブランドが見初めたのは和傘のグラフィック

越前和紙や美濃和紙に京銘竹といった素材に
京漆や真田紐といった京都が誇る手業が加わる。
その傘が遠く異国でデザインとして花開いていた。
雨具をモチーフとした照明の名は「向日葵」という。



20世紀初め頃活躍したデンマークの建築家、
P.V.イェンセン・クリントが
紙を折り曲げ作ったレ・クリント社の
ランプシェード「Sun Flower」。
BoConcept でのみ、この3月から限定販売。

明治を迎え、江戸が東京となったころ、
かの天璋院篤姫は勝海舟の教えた蝙蝠傘に
とても興味を示したと伝えられている。
日本国内で傘といえば、江戸時代半ばに普及した
和紙と竹で作られた
番傘や蛇の目傘が
それまでは一般的だった。
飛鳥時代に中国から伝わり、衣笠などと呼ばれた
貴人のための天蓋を端緒とする日本の傘は
安土桃山時代には開閉式が開発され、細工を指す
「カラクリ」から「唐傘」という言葉も生まれた。

江戸時代から続く傘屋の仕事に見る
人の手が織りなす美しいかたち

しかし、天璋院篤姫も積極的だったという

「ご維新」時の急速な洋化の波のなか、

和傘はその生産数を急速に減らすことになった。

現在、日本国内でわずかに作られる和傘のなかで、

その作り、姿の美しさから

京都のものは

とりわけ名品とされる。